

食品中の放射性セシウムについて

● 食品中の放射性セシウムの基準値

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、福島第一原子力発電所の事故を引き起こしました。そして、この事故により、放射性セシウムなどの放射性物質が環境中に放出されました。

事故直後の3月17日に厚生労働省は、原子力安全委員会により示された飲食物摂取制限に関する指標値を、食品中の放射性物質の暫定規制値として設定し、暫定規制値を超える食品が市場に流通しないよう対策しました。当時の放射性セシウムにおける暫定規制値は、「飲料水」と「牛乳・乳製品」が200 Bq (ベクレル) /kgで、「野菜類」と「穀物類」、「肉・卵・魚・その他」が500 Bq/kgでした。

暫定規制値を下回る食品は、健康への影響はないと一般的に評価され、安全性は確保されていましたが、より一層、食品の安全と安心を確保する観点から、平成24年4月1日に新たな基準値が設定されました(表1)。

表1. 食品中の放射性セシウムの基準値

食品群	基準値 (Bq/kg)
飲料水・茶	10
乳・乳飲料	50
乳児用食品	50
一般食品 (上記以外)	100

● 沖縄県でのモニタリング検査

沖縄県では、平成24年度から県内で流通している国産食品について、放射性セシウムのモニタリング検査を行っています。検査対象は一般食品で、検査にはNaI (TI) シンチレーションスペクトロメーター(写真)を用いています。

平成24年度に122検体、平成25年度に85検体、平成26年度に90検体について検査を行ったところ、基準値(100 Bq/kg)を超過した検体は一つもなく、全て検出下限値未満でした(表2)。



写真. NaI (TI) シンチレーションスペクトロメーター

表2. 食品中の放射性セシウムの検査結果

検査年度	検体数	基準値超過	結果 (Bq/kg)		
			¹³⁴ Cs ^{※1}	¹³⁷ Cs ^{※2}	Cs 合計
H 24	122	0	< 10	< 15	< 25
H 25	85	0	< 10	< 15	< 25
H 26	90	0	< 10	< 15	< 25
総計	297	0			

※1. セシウム134 (¹³⁴Cs) の検出下限値は10 Bq/kg。
 ※2. セシウム137 (¹³⁷Cs) の検出下限値は15 Bq/kg。

沖縄県が実施したモニタリングの検査結果は、沖縄県生活衛生課のホームページで見ることができ、食品の産地や品目も確認することができます。さらに、厚生労働省のホームページでは、沖縄県の結果も含め、全国の各自治体を実施している検査結果について見ることができます。その他にも、各種パンフレットやQ&Aなども紹介されていますので、是非この機会にアクセスしてみたいかがでしょうか。

【衛生化学班】

<ホームページ>

- 1) 食品中の放射性物質モニタリング検査(沖縄県)
http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/seikatsu_eisei/syokuhin_nyuniku/syokuhineisei_anzen_hosya.html
- 2) 食品中の放射性物質への対応(厚生労働省)
http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html